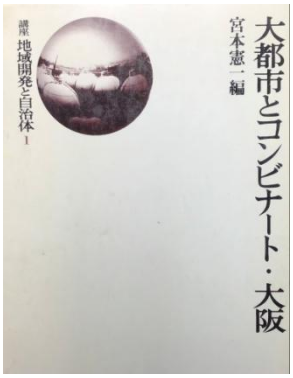
『大都市とコンビナート・大阪』

12 月 25 日午後、京都駅前のキャンパスプラザで背広ゼミ主催の「宮本・加茂対談」があった。京都には多くの観光客が詰めかけていたが、早めに会場に行き、4 時間近くの対談に集中して耳を傾けた。示唆に富む対談については、じっくりと紹介したいが、とりあえず「自分史」とも関わりのあることを記録しておきたい。

宮本憲一先生と加茂利男先生との研究面の本格的な「出会い」は、1970 年代前半の堺・泉北コンビナート研究である。写真は 1977 年に筑摩書房から刊行された『大都市とコンビナート・大阪』。宮本憲一編「講座 地域開発と自治体」1 であり、2 は『公害都市の再生・水俣』、3 は『開発と自治の展望・沖縄』である。



本書のはじめにで、宮本先生は「この講座は、地域自治体問題研究会の手でつくられた。この研究会の前身は、1971 年につくられた関西水俣病問題研究会である。この会は熊本水俣病の裁判と関連して発足した。(中略) その後、地域開発問題の重要性と学際的研究の進展から、研究会を発展的に改組する必要がでてきて、メンバーも拡大し、テーマも水俣病のみならず地域問題全般にわたるようにし、関西地域の若手研究者をあつめ、地域自治体問題の恒常的調査研究を行なうこととしたのである。本講座を編集するにあたっては、メンバーの一部のみが執筆したが、その過程で全員が協力しているので、ここに研究会のメンバーを紹介しておきたい。

研究会メンバーとして 26 名の研究者が記載されている。私の名前もある。1971 年 3 月に信州大をなんとか卒業し、宮本先生のもとで研究したいと思い、大阪市大近くに下宿してゼミなどを聴講した。73 年に大学院に入学できたが、その頃から堺・泉北コンビナート調査研究が本格的に始まった。研究会の「地域開発の地域経済社会への影響に関する総合的研究」にたいして 74－76 年度に科学研究費補助金が支給された。ゼミ先輩の遠藤宏一さんとともに研究会事務局をつとめた。修士論文の関係もあり、本書の執筆に加われなかったが、「堺・泉北臨海工業地帯開発年表」の作成などを担当した。

本書の主な目次を紹介しておきたい。序章 地域開発の現実と課題　第Ⅰ章 コンビナートと地域開発　第Ⅱ章 コンビナートと開発行財政制度―企業局方式の検討
第Ⅲ章 土地利用計画と地域空間の変容　第Ⅳ章 堺・泉北臨海工業地帯造成と行財政
第Ⅴ章 コンビナートの公害と災害　第Ⅵ章 コンビナートと都市政治
第 V11 章 大都市臨海地域開発の展望

(2022 年 12 月 27 日)